

三島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的に学習に取り組み、自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長・総括	田上 善博
山本 美保		教頭・総括補佐	辻 宏明
		教務	西原 寛喜
		下学年推進員	高木 道子
		上学年推進員	宇山 知恵美
		特別支援教育コーディネーター	吉田 美奈

校長

田上 善博

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、授業公開等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算のドリル学習に真面目に取り組む、ある程度定着している。 ●学習した内容が、生活の中にあまり活用されていない。 ●文章の読解力が不十分である。	・各学年で学習する漢字や計算等、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・日記や作文の中で既習漢字を使う等、身につけた知識・技能を学習や生活の中で活用することができる。 ・文章を正確に読み、文章の内容が理解できる。	・タブドリ Live を活用し、予習や復習をしようとする意欲付けをする。 ・ドリルタイムで既習内容の復習や小テストを行い、読み書き計算の力や語彙力を高める。 ・日記や作文の中で新出漢字や国語の教科書に関連する言葉が使えたら、賞賛する。 ・毎週子ども新聞を読むことで文章を読むことを楽しみながら、読み取る力も身につける。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを素直に表現できる児童が多い。根拠を明らかにして発表できる児童も増えた。 ●一人での課題把握が難しく支援を必要とする場面がある。 ●話し合い等による対話的で深い学びが不十分である。	・課題を正確に理解し、解決に向けて、見通しをもって粘り強く考えることができる。 ・話す活動や書く活動の時に、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを表現できる。 ・友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことができる。	・学習形態を工夫したり、ホワイトボードや付箋、タブレットを活用して、自分の思いや考えをその理由や根拠と共に、表現できる場を増やす。 ・教員相互に、その活用方法を提案し合う。 ・自分の思いを表現できる学級づくりを目指す。 ・学級会の時間を確保し、自分の考えの表現やお互いの意見のすり合わせをする経験を積ませる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校での学習や家庭学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ○自分で目標を定めて主体的に取り組む、それを広げようとする児童が増えた。 ●失敗や間違いを恐れて、主体性が発揮できず、機械的になってしまう。 ●家庭での読書量が少ない。	・問題意識をもって学習に取り組むことができる。 ・学びの内容や方法を自己選択・自己決定することができる。 ・自分の学びを振り返り、学んだことを次に生かすことができる。 ・家庭でも学習や読書に取り組むことができる。	・児童にとって必要性のある学びとなるよう、自分に合っためあてや解決方法を自分で考えさせる時間を確保する。 ・学んだことを次の学習に生かせるよう、キーワードを提示して振り返りを書かせる。 ・月1回縦割り班活動で本の読み聞かせを行う。 ・月1回担任が選んだ本を「リレー家読」し、読書に興味を持てるよう働きかけをする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

